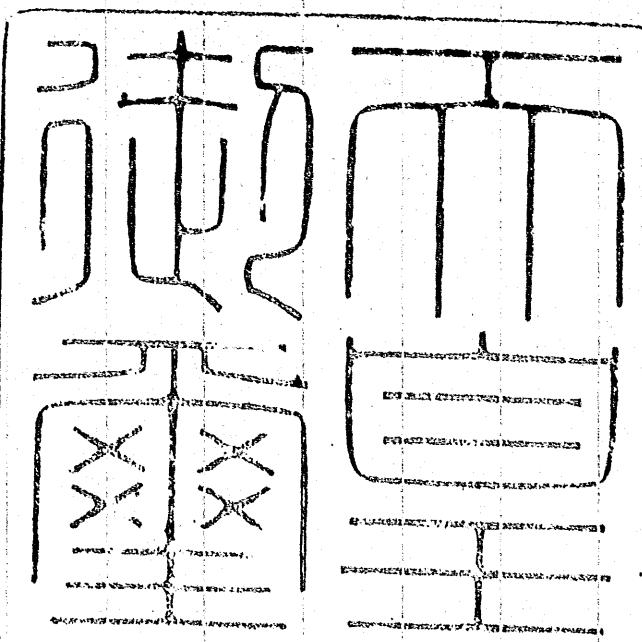


明治三十年十月十三日



時
代

朕基臺灣總督府官制ノ裁可シ茲ハ公
布セシム

勅定大清郵政

内閣總理大臣泊馬松方、
海軍大臣侯爵西郷從道
陸軍大臣子爵為島納之助

勅令第三百六十二號

臺灣總督府官制

- 第一條 基本總督府、臺灣總督、置之
總督、臺灣及澎湖列島ヲ管轄ス
- 第二條 總督、親任トス、陸海軍大將若
「中將ヲ以テ之ニ充ツ」
- 第三條 總督、委任、範圍及、於、陸
海軍シ、統率シ、内閣總理大臣、監督ツ
承ケ、諸般、政務ヲ、統理ス
- 第四條 總督、軍政及、陸海軍軍人、軍屬

人事ニ關シテ、陸軍大臣若、海軍大臣、防禦作戰茲事貞計畫ニ關シテ、參謀總長若、海軍軍令部長、陸軍軍隊教育ニ關シテ、監軍、區處ヲ承、
第五條　總督、其職權若、特別、委任ニ依リ、總督府令ノ發レ之ニ禁錮一年以下又、罰金二百圓以内、罰則ノ附スルコトシ得

第六條　總督、其管轄區域内、防備事ヲ掌ル

第七條　總督、其管轄區域内、安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ト認ムトキ、兵力ヲ使用スルコトシ得

前項、場合、於テ、内閣總理大臣、陸軍大臣、海軍大臣、參謀總長及海軍軍令部長ニ之ソ報告スヘン
第八條　明治二十九年法律第六十三號
第二條又、第四條、勅裁ヲ請フトキ、内閣總理大臣ヲ經由スヘン
第九條　總督、必要ト認ムル地域内ニ

於テ其ノ地ノ守備隊長若ノ駐在武官
ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコト

ヲ得

第十條　總督ノ知事若ニ廳長ノ命令又
ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ
又ハ权限ヲ犯スモノアリト認ムト
キ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ
取消スコトヲ得

第十一條　總督ノ所部ノ官吏ヲ統督シ
奏任文官ノ進退ヲ内閣總理大臣ヲ經

テ之ヲ上奏シ判任官以下ニシテ専行
ス

第十二條　總督ノ内閣總理大臣ヲ經テ
所部文官ノ叙位叙勳ヲ上奏ス

第十三條　總督ノ所部文官ヲ懲戒ス其
ノ勅任官ニ係ルモノヲ奏任官ノ免
官ノ内閣總理大臣ヲ經テ上奏シ其ノ
他ノ之ヲ専行ス

第十四條　總督府ノ總督官房ヲ置ク
總督官房ノ副官二人及專任秘書官二

人ヲ置ク機密事務及文書、取扱ヲ掌

副官、陸海軍佐尉官、内各一人、以
テ之ニ充ツ

秘書官、奏任トス

第十五條、總督府ニ陸軍幕僚、海軍幕僚

民政局財務局ヲ置ク

陸海軍幕僚條例、別ニ之ヲ定ム

第十六條、民政局、民政及司法、關

ル、一職、事務ヲ掌ル

第十七條、財務局、財務、關スル事務

ヲ掌ル

第十八條、各局中、部課、總督之ヲ掌

第十九條、總督府、左、職員ヲ置ク

財務局長

事務官

參事官

技師

通譯官

屬

役手

通譯官補

第二十條 民政局長財務局長、各一人
勅任トス總督、命シ承ケ局務ヲ整理メ

第二十一條 事務官、專任二八人勅任
文ハ奏任トス民政局又ハ財務局ニ屬
シ總督又ハ局長、命シ承ケ各部課ノ
事務ヲ掌ル

第二十二條 參事官、專任二人勅任又
ハ奏任トス總督又ハ民政局長、命シ
承ケ審議立案ヲ掌リ及臨時命シ承ケ
各部課ノ事務ヲ助ク

第二十三條 役師、二ナ人奏任トス上
官、命シ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル
第二十四條 通譯官、專任二人奏任ト
ス上官、命シ承ケ文書翻譯及通譯
事ヲ掌ル

第二十五條 屬役手及通譯官補、通シ

テ三百人判任トス上官、指揮ヲ承ケ
庶務技術及通譯等、從事ス

附 則

第二十六條 本令、明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

第二十七條 明治二十九年勅令第八十
八號臺灣總督府條例同年勅令第九十
號臺灣總督府民政局官制同年勅令第
百十六號臺灣總督府軍務局官制並
同年勅令第一百六十九號基隆總督府民

政局臨時王水部官制、本令施行ノ日
ヨリ之ヲ廢止ス